

農楽部 畑っこ

門傳みこ（環境人間学部 環境デザイン系 3 回生）

キーワード：農業，多世代交流，地域交流

1. 団体概要

畑っこは、環境人間キャンパス内にある畑で毎週水曜日に活動している学生団体である。

現在は 3 回生 8 人，2 回生 7 人の計 15 人で活動を行っている。

「農を楽しむ」をコンセプトに、在来種の保存も目指しながら地域の方々と協力したくさんの野菜・果物を育てており、畑で収穫したもち米を用いた餅つき大会やこんにゃく芋から作るこんにゃく作り、六条大麦を焙煎して作った麦茶の試飲会など普段の学生生活では味わうことのできない畑っこならではの体験を行っている。

栽培に関しては地域の方々の協力のもと、単に野菜を栽培し収穫することを目的とするのではなく、種を採取し次年度もその種を栽培できるサイクルを生み出している。さらに、種の保存だけでなく、伝統的な農作業の方法も学生に引き継いでいる。近年農業において機械を利用することが一般化され、ICT を活用したスマート農業にも大きな期待が寄せられているが、畑っこでは昔ながらの農具を使い、種まき、収穫、そして調理して食べるまで、食の一連の流れを体験することで「鎌と鍬さえあれば食べていける」ということを学んでいる。今後は種の保存を行っていくとともに、畑っこの活動を通して農業に関わる若者を増やすことを目的として活動していく。

2. 2023 年度の活動について

毎週水曜日に畝(うね)づくり，種まき，草引き，水やり，収穫を主に行っているが，今年度は畑っこの活動を広く伝える活動も行ってきた。

5 月の春フェス，7 月のエコフェス，12 月の環境人間フォーラムにて，多くの学生・地域の方に畑っこの活動について周知させることができた。

特に 7 月に環境人間キャンパスで行われたエコフェスでは，畑で収穫したじゃがいもを使用し，「いももち」を販売したことによって多くの方に環境人間キャンパス内の畑の存在や，在来種，畑っこの活動について知ってもらう良い機会となっ

た。さらに，昨年収穫したこんにゃく芋から作る手作りのこんにゃくや，もち米の藁でしめ縄を作るなどここでしかできない体験を多く行うことができた。

表 1. 2023 年度の活動

4 月	味噌づくり
5 月	春フェス
6 月	もち米の田植え
7 月	エコフェス出店
8 月	BBQ
9 月	六条大麦の脱穀
10 月	こんにゃくづくり
11 月	もち米 稲刈り
12 月	しめ縄づくり
1 月	餅つき大会

(出所)執筆者作成



写真 1 エコフェス
(出所)学生団体畑っこ

3. 活動を通して学んだこと

今年度は昨年育てた野菜の種を採取し，種から野菜を栽培することができた。実際に種の保存のサイクルを経験できたことにより，食に対しての考えが少し変わっていった。今までは当たり前の

ようにスーパーに行って野菜を購入し、その種は捨てて、また新しい野菜を購入するというように繰り返し購入することでしか自分の食を支えることができないと思っていたが、種の保存のサイクルを経験したことで、一度育てれば永遠に野菜を育てることができることが分かり、思っていたよりも簡単に自分の手で自分の食を支えることができるということが分かった。自分で野菜を育てることは何よりも無農薬野菜を食べることになり、自分や家族の健康にもつながるため、スーパーで野菜を購入するのではなく、自分で野菜を育てることは経済的にも健康的にもとても利益があることだと感じた。

畑っこに入り、無駄なく野菜を使い切り、大根の葉やニンジンの葉など食べないのなら土に返して肥料にするということも教わり、食べ物を無駄にしないことを学んだ。さらに、ゴマやお米、麦などは収穫してからも「実」と不要な部分に選別する地道で時間のかかる作業を何度も行うことでようやく私たちの口の中に入れることができるということを学び、普段私たちが食べている食べ物は多くの人が大変な思いをして私たちの食卓まで運ばれてきているのだなということを感じることができた。

畑っこを引退した後も、なんでもすぐに購入しようとするのではなく、自分で野菜を栽培することも選択肢においてこれから生活していきたい。



写真2 脱穀
(出所)学生団体畑っこ

4. 今後の展望

現在畑っこに在籍しているメンバーは約1・2年間しか活動しておらず、昨年度から今年度にかけては農作業などやったことのない作業をやることで精一杯だった。そのため地域の方に栽培方法を聞くことが多くあったが、今年度の後半からは、何度も繰り返し経験した作業に関しては学生自ら進んで作業に入ることができた。今後は畑っこの活動を学生同士で教え合って継承していきようにしていきたい。

また、タネを守ること、栽培し続けることでその種が守られること、育てて守る人、食べる人がいなければ野菜の多様性や地域で育まれてきた野菜などがなくなってしまうということを知ったので、このことを多くの人に知ってもらいたい。

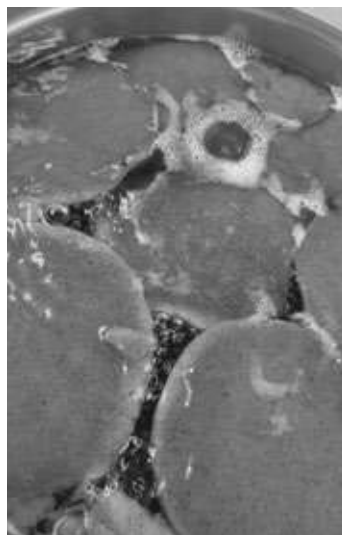


写真3 こんにゃくづくり
(出所)学生団体畑っこ



写真4 しめ縄づくり
(出所)学生団体畑っこ